

海外邦人安全対策情報（平成25年4月～6月（平成25年度第1四半期））

1. 社会・治安情勢

昨年6月のイエメン政府軍によるアル・カーイダ掃討作戦により、アル・カーイダは本拠地としていたアビヤン州の各都市から周辺諸州に逃走した。その後も各地に潜伏するアル・カーイダ分子による政府軍・治安部隊施設等に対する自爆攻撃、軍・治安当局者の殺害及び誘拐、外国人に対する誘拐・殺害事件等のテロ活動を継続して行ってきた。

本年に入り、3月18日に国民対話会議が開幕し、イエメン全土の警備体制が強化されたことから、アル・カーイダのテロ活動は一時下火になっていたが、4月以降、ハドラマウト州・アビヤン州等でテロ活動を再開している。またアル・カーイダは外国人誘拐事件への関与を続けていると見られる。（誘拐したスイス人女性、フィンランド人夫妻、オーストリア人男性を解放する際得た身代金等がアル・カーイダによるテロ活動の資金源となっているとの見方がある）

2012年における政府軍及び治安部隊要員の殺害件数（内務省発表）は、首都サマアで18件、ラヘジ州で15件、ハドラマウト州及びタイズ州で各々10件、ダーリア州で6件、アデン州、ベータ州及びアビヤン州等で7件であった。

また2012年にオートバイを使用した殺害件数（内務省発表）は、全国で66件のぼり、政府軍及び治安部隊要員を標的とした殺害事件の約95%がオートバイを使用したものであり、政府軍及び治安部隊要員40名、一般市民4名が殺害されるとともに、国軍及び治安部隊要員21名及び一般市民9名が負傷した。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 当国における一般犯罪発生統計については、2012年版の統計資料が未発表のため、2011年版イエメン政府発表の一般犯罪発生統計に基づき、当国における凶悪犯罪を含む一般犯罪の現状につき、以下の通り述べる。

2011（平成23）年中に発生した殺人事件発生件数は1393件（殺人未遂を除く）（前年比24%増）、強盗事件発生件数は471件（前年比7.5%減）、放火事件発生件数は254件（放火未遂を除く）（前年比15.1%減）、強姦事件発生件数は145件（強姦未遂を除く）（前年比27.5%減）、誘拐事件発生件数は220件（前年比35%増）、窃盗（住居等侵入）事件発生件数は2049件（前年比18.7%減）、窃盗（自動車盗）事件発生件数は1182件（前年比20.2%増）となっている。殺人、誘拐などの凶悪犯罪及び自動車盗の発生件数が激増していることがわかる。人口10万人当たり換算した一般事件発生率では強盗、放火、強姦事件は日本と同程度であるが、殺人事件については日本の約6倍、誘拐事件については日本の約8倍と、いずれも日本に比べて高い発生率となっている。一方、窃盗（住居等侵入）事件発生率は日本の約12分の1、自動車盗事件の発生率は日本の約4分の1である。（警察庁刑事局刑事企画課発表、平成23年

1月～12月分犯罪統計資料【確定値】に基づく)。また当国の特徴の一つとして、銃器が市民に広く浸透しており、これら銃器がイエメン人同士の争いに使用されるケースが多々存在することから十分な注意を要する。2013年に入り、イエメンの将来の方向性を決定づける国民対話会議が3月18日から開会し、それに伴い、治安当局による昨年以上の重層的な警備体制が敷かれていることもあり、一般犯罪発生件数は横ばいまたは減少傾向になるとみられるが、引き続き注意を要する治安状況である。

(2) 平成25年4月～6月中の邦人被害にかかる一般犯罪については確認されていない。但し、過去に邦人が巻き込まれた犯罪例としては、邦人に対して親しげに話しかけ、観光案内資料の購入を持ちかけ、後になって法外なガイド料を要求したり、当国の治安当局関係者であると装って近づき、一瞬の隙を見て財物を窃取する等の事件及び女性に対する痴漢事件等が報告されている。以上の点から、個人旅行者は、親しげにすり寄ってくる現地人に注意すると共に、いわれのない金品の請求には断固とした態度をとって拒否する姿勢が重要である。また他の事例として、当地の比較的安価な価格のホテルに投宿した邦人旅行者が就寝中、突然何者かが同人居室に侵入し、所持品を窃取されるという事案も発生している。部屋の出入口ドアの施錠等についても細心の注意が必要である。なお、平成25年7月21日現在、当国全土に渡航自粛・退避勧告が発令されている。

(4) 当地の交通事情については、車両最優先であり、2011(平成23)年中のイエメン政府発行の交通事故統計資料によれば、交通死亡事故による死者数は2152人(前年比27.3%減)であり、日本と比べて人口10万人あたり約2倍となっている(日本における2011(平成23)年中の交通事故死亡者数は4612人)。交通マナーはほぼ皆無であり、信号無視、速度超過、通行区分違反(逆走)、右左折時の方向指示器不使用等の交通違反は枚挙にいとまがない。道路を通行する際には、細心の注意が必要である。

3. テロ・爆弾事件発生状況(平成25年4月～6月)

(1) 4月1日、ハドラマウト州ガイル・バワジュール郡において、政治治安総局幹部がオートバイに乗った二人組の武装集団による銃撃を受けて殺害された。

(2) 4月2日、ハドラマウト州ムカッラ市バウイーシュ地区において、交通警察副所長の車両に爆弾が仕掛けられているのが発見され、爆弾処理班が同爆弾を解除した。

(3) 4月3日、サヌア市内アムラーン交差点近くにおいて、アムラン州アッシャ郡旧与党支部代表の車両に仕掛けてあった爆弾が爆発し、同人が死亡、同人の同行者2名が負傷した。

(4) 4月4日、タイズ州タイズィーヤ郡において、同郡旧与党代表が何者かによって殺害された。

(5) 4月4日、タイズ州シャミール地区において、土中に敷設してあった地雷が爆発し、子供2名が重体を負った。

(6) 4月5日、アデン州ホール・マクセル地区において、同州知事の車両が正体不明の

武装集団により銃撃を受けた。同知事の家族が乗車していたが、家族は無事であったが、運転手が負傷した。

(7) 4月7日、内務省は、爆弾が仕掛けられたセダン型車両がサヌア市内に入ったとの情報を受けて首相府を中心に市内で最大規模の厳戒態勢を取り、同車両の行方を追ったところ、首相府近くに不審車両が停まっているとの一般市民からの通報を受けて爆弾処理班が現場に急行し、同車両に仕掛けられていた爆弾を解除した。

(8) 4月7日、アビヤン州ジンジバルの市民委員会（アル・カーイダ掃討作戦で国軍部隊に協力）は、ジンジバル郊外にあるアル・カーイダのアジトを襲撃し、アル・カーイダメンバーとの交戦の末、サウジ国籍メンバー1名の身柄を拘束した。

(9) 4月8日、マアリブ州ワーディー・オベイダ地区に敷設されている原油採掘所から紅海岸の原油輸出基地ラアス・イーサー港を結ぶ石油パイプラインが武装集団による攻撃を受けた。これにより原油生産が全面的に停止された。

(10) 4月8日、マアリブ州ダマーシュカ地区にある送電施設が武装集団によって攻撃され、マアレブ発電所から首都サヌア等への送電が停止する事態が発生した。

(11) 4月8日、マアリブ州シルワーフ地区において、国軍部隊と部族武装集団との間で激しい衝突が発生し、1名が死亡、6名が負傷した。

(12) 4月8日、マアリブ州ダマーシュカ地区において、同日に破壊された送電施設の修理が完了した約15分後に再び破壊行為が行われたため、マアリブ発電所からの送電が再度停止する事態が発生した。9日には、同地区で新たに送電施設が破壊された。更に、同州ハダナ地区において、ダマーシュカ地区で破壊された箇所での修理が完了した約1時間後に送電施設が破壊される事態が発生、これにより同州において24時間以内に5か所の送電施設が破壊された。

(13) 4月8日、ベエダ州ラダーア市内において、共和国防衛隊第4旅団の部隊とアル・カーイダ戦闘員との間で衝突が発生し、共和国防衛隊4名、アル・カーイダ戦闘員3名が死亡した。

(14) 4月9日、ベエダ州ラダーア市において、共和国防衛隊とアル・カーイダ戦闘員との衝突が発生した。両者間の戦闘は市街戦に発展、共和国防衛隊が前線から撤退したためアル・カーイダ戦闘員が市内の道路を占拠し完全封鎖した。同戦闘で7名が死亡、数十名が負傷した。

(15) 4月10日、ダーリア州サハーフ地区において国軍部隊と正体不明の武装勢力との間で衝突が発生し、兵士1名が負傷、3名が負傷した。

(16) 4月13日、サヌア市内マズバフ地区において、バアス党（シリア系）幹部が同地区にある自宅に帰宅しようとしたところ、何者かに鉄パイプによる暴行を受ける事件が発生した。

(17) 4月13日、ベエダ州の州都ベエダ市内にある同州知事の自宅が正体不明の武装集団による砲撃を受けた。

(18) 4月13日、ハドラマウト州シャハル郡において、現地治安当局幹部がオートバイに乗った正体不明の武装集団による銃撃を受けて死亡した。

(19) 4月15日、イエメン電力公社、サヌア州ファルダ・ニフム地区に設置されている送電施設が銃撃により破壊されたため、マアレブ発電所から首都サヌアへの送電が停止した。

(20) 4月16日、サヌア州ニフム地区に敷設されてあるマアレブ発電所と首都サヌアを結ぶ送電施設が破壊されたため送電が全面的にストップした。

(21) 4月17日、ダマール州ハダー郡マルハー地区において、ホーシー派の国民対話参加メンバーの自宅が正体不明の武装集団により銃撃された。

(22) 4月19日、ハドラマウト州の州都ムカッラ郊外において、政治治安総局幹部がアル・カーイダと思われる武装集団による銃撃を受けて死亡した。

(23) 4月21日、アデン州において、南部運動指導者の一人が乗った車両が正体不明の武装集団により銃撃された。同人に負傷等はなかった。

(24) 4月22日、ハッジヤ州ハラダ郡において、サウジに密入国しようとしていた外国籍の5名が治安当局に身柄拘束された。身柄拘束されたのはエジプト国籍3名、シリア国籍1名及びパキスタン国籍1名のアル・カーイダメンバー5名であり、彼らはサウジ国内でテロを実行することを計画していた。

(25) 4月22日、AQAP戦闘員がベータ州ダラーア地区において、サアーリブ軍事キャンプの占領を目的として襲撃し、両者に複数の死傷者が発生した。

(26) 4月23日、サヌア市内60メートル通り沿いにあるハーディー大統領私邸近くのカート市場において、部族武装集団が同市場を襲撃し、同市場内で激しい銃撃戦が発生し、1名が重体。

(27) 4月23日、サヌア市内仏大使館近くで発砲事件が発生した。

(28) 4月24日、ハドラマウト州ガイル・バワジール郡において、国軍部隊第27機械旅団部隊を狙った路上仕掛け爆弾が爆発した。同爆弾は同部隊から少し離れた場所で爆破したため同部隊に被害はなかった。

(29) 4月25日、サヌア市内科学技術大学内部において、シリア国籍の女学生が正体不明の武装集団に拉致され、暴行された後に市内の通りに放置される事件が発生した。

(30) 4月25日、イップ州の州都イップ市内の某ホテルにおいて、同州旧与党幹部の銃殺遺体が発見された。

(31) 4月26日、マアリブ州ワーディー郡サーフィル地区に敷設されている同州アスアド石油採掘場からつながるパイプラインが武装集団により破壊された。

(32) 4月27日、ベータ州ラダーア市内において、武装集団と中央治安部隊要員との間で銃撃戦が発生し、武装集団メンバー1名及び中央治安部隊要員2名が死亡した。

(33) 4月27日、ハドラマウト州の州都ムカッラにおいて、同州国軍情報部のトップがアル・カーイダメンバーと思われるオートバイに乗った武装集団による銃撃を受けて死

亡した。

(34) 5月5日、タイズ州において、同州副知事車列を狙った暗殺未遂事件が発生した。

(35) 5月7日、サヌア州ニフム地区送電網への破壊攻撃により、マアリブ発電所第1サイクルが稼働停止となった。

(36) 5月8日、ラヘジ州アナド基地周辺において、アデン州にある自宅から同基地への出勤途中の国軍パイロット3名が武装グループに殺害された。

(37) 5月9日、サヌア市内シャムラーン地区において、第1師団所属国軍幹部が何者かによって殺害された。

(38) 5月9日、ラヘジ州ラヘジにおいて、買い物途中であった政治治安局員に対しバイクに乗った2人組が消音銃で同人を殺害した。

(39) 5月9日、アデン市シェイクオスマーン地区において、何者かが住宅地に投げ入れた爆弾が爆破し、9名が負傷した。

(40) 5月11日、マアリブ州ダマーシュカ地区に敷設されているマアリブ発電所と首都サヌアを結ぶ送電施設が武装集団によって破壊される事態が発生した。

(41) 5月12日、サヌア市内60メートル通りにおいて、仕掛け爆弾が発見され、治安当局により処理された。同爆弾は、重量7キログラムの極めて強い爆発力を有するC-3爆弾であった。

(42) 5月12日、マアリブ州マアリブ市内に設置されている第三山岳歩兵旅団部隊のセキュリティ・チェックポイントにおいて、同部隊と部族武装集団との間で衝突が発生し、2名が死亡、3名が負傷した。

(43) 5月12日、アデン州マンスーラ地区において、アル・カーイダメンバーのアジトとして使用されていたアパートの一室を治安部隊が急襲、これを受けて室内にいたメンバー3名の内1名が爆弾の仕掛けられたベルトを起爆させて死亡した。

(44) 5月13日、サヌア市南部ダール・サラム地区において、マアリブ及びホーラーン上空での飛行訓練を終えた軍用機スホイ22型戦闘機が基地に帰還の途中に墜落した。

(45) 5月14日、サヌア市内警察学校通りで武装ギャング同士の衝突が発生した。

(46) 5月14日、サヌア市内において、オートバイに乗った正体不明の集団が当地サウジ大使館に近い財務省庁舎東部の住宅の一つに音響爆弾を投げ込む事件が発生した。

(47) 5月14日、アビヤン州ラウダル市において、ラウダル病院内のロシア国籍医師の宿舎近くの部屋で爆発物が発見されたが、市民委員会の手で未発処理された。

(48) 5月25日、ハドラマウト州シャヘル市において、軍パトロール隊を狙った爆弾テロがあり、兵2人が死亡、6人が負傷した。

(49) 5月26日、ハドラマウト州クトン郡において、特別治安部隊(旧中央治安部隊)所属幹部がバイクに乗った武装グループの銃撃を受け死亡した。

(50) 5月27日、マアリブ州ダマシュカ地区において、送電線への新たな破壊攻撃があり、全国への送電網が稼働停止した。

(51) 5月27日、シャブワ州、マアリブ州、ジョウフ州において、光ケーブルへの破壊攻撃があり、インターネット通信サービスが一部停止した。

(52) 5月27日、ハドラマウト州ハウラ地区において、爆弾テロがあり、タンクローリー警備中の兵士3名が負傷した。

(53) 5月28日、ハドラマウト州ムカッラ市郊外において、中央治安部隊車列が通行中に爆発物が爆破したが、人的被害はなかった。

(54) 5月29日、アビヤン州ラウダル市において、人民委員会が爆発物を起爆させようとした自爆テロ犯を逮捕した。

(55) 5月31日、タイズ市ジョバン地区において、イエメン系米国人(26歳)がモスクに向かう途中に武装グループに取り囲まれ、機関銃で胸を6発打たれ、殺害された。

(56) 6月1日、ハドラマウト州において、同州サイユーン空港警察司令がオートバイに乗車した武装グループに殺害された。

(57) 6月1日、ハドラマウト州サイユーンにおいて、内務省刑事調査局長(大佐)が爆弾テロにより殺害された。また、同日、サイユーン空港警察局長(中佐)もオートバイに乗車した2人組の銃撃により殺害された。

(58) 6月3日、サヌア市内ハッダ地区において、両替会社所有の車両が強奪され、3万サウジリヤルが奪われた。

(59) 6月5日、アビヤン州ラウダル市において、カート市場で爆弾テロが発生した。(60)

6月9日、アビヤン州ラウダル市において、カート市場近くで爆弾テロが発生し、同市刑務所長が重傷を負った。

(61) 6月9日、ハドラマウト州クトン郡アニーン地区において、軍パトロール隊を狙った爆弾テロがあり、兵1名が死亡し、3名が負傷した。

(62) 6月10日、サヌア州ニフム地区及びジャルダン地区において、送電線への攻撃があり、マアリブ発電所は稼働停止した。

(63) 6月13日、マアリブ州シルワーフ地区において、武装グループが石油パイプラインへ爆破攻撃を行った。

(64) 6月14日、マアリブ州シルワーフ郡アクル・ハバーブ地区において、武装グループが石油パイプラインを攻撃した。

(65) 6月14日、ハドラマウト州マシーラ油田において、警備部隊とハムーム部族武装グループとの衝突が発生し、兵1名が死亡、3名が負傷した。

(66) 6月15日、マアリブ州マアリブ市において、公安庁舎ビルで爆弾テロが発生した。

(67) 6月17日、マアリブ州ダマシュカ地区において、マアリブーサヌア間の送電線への新たな破壊工作があった。

(68) 6月19日、サアダ州サアダ市の青果市場において、爆発物を積んだオートバイが爆破し、2名が死亡、11名が負傷した。

(69) 6月20日、中国大使車列がサヌア市内西部（モーベンピックホテルへの経路である）公共事業省近くを通行中に、数発の銃弾発射音がし、大使車（防弾車）はスピードを上げ難を逃れたが、イエメン側警備車が集中的に銃弾を受けた。負傷者等なし。

(70) 6月21日、サアダ州サアダ市において、ホーシー派の集会を狙った自爆テロ未遂があった。犯人は爆弾ベルトを爆破させようとしたところを取り押さえられた。

(71) 6月21日、ダーリア州カアタバ郡において、土地争いから部族間の武装抗争となり、2名が死亡、2名が負傷した。

(72) 6月22日、ベータ州ラダーウにおいて、旧与党幹部の車両に仕掛けられた爆発物が爆破し、4名が負傷した。爆発物は遠隔操作によるもの。

(73) 6月23日、サヌア市内イエメン門周辺において、ラヘジ州出身の部族有力者の乗車する車両が何者かに銃撃されたが、同人は無事。

(74) 6月25日、シャブワ州アタク市において、武装グループが公道上で刑事警察職員に発砲し、刑事警察捜査責任者ほか2名が死亡、もう一人が負傷した。

(75) 6月29日、サヌア市内中央銀行（旧市街近く）近くアンカート市場において、爆発物（9キロ、携帯電話による起爆）が発見されたが、専門家チームにより不発処理された。

(76) 6月30日、サヌア旧市街母子センター付近において、爆発物（7キロ、携帯電話による起爆）が発見されたが、不発処理された。

(77) 6月30日、マアリブ州シルワーフ郡において、輸出用石油パイプラインへの爆破攻撃があり、パイプライン加圧作業が停止した。爆破犯は炎を浴びて重傷を負い、病院で死亡。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況（平成25年4月～6月）

(1) 4月20日、サヌア市内アルジェリア通りにおいて、当地ブルガリア大使館領事部のブルガリア人外交官に対する誘拐未遂事件が発生した。

(2) 5月6日、当国国務相の個人秘書がサヌア市内で武装グループに誘拐された。

(3) 5月6日、アビヤン州バティス地区において、セメント工場に勤務するエジプト人技師2名が武装部族グループに誘拐されたが、16日解放された。

(4) 5月8日、アビヤン州ジャアールにおいて、国際赤十字委員会に勤務する医師2名（イエメン人及びインド人）が車で移動中に武装グループにより誘拐されたが、アビヤン州カンファルの人民委員会により数時間後に無事解放された。

(5) 5月8日、シャブワ州アシーラーン郡において、旅行会社勤務のトルコ国籍男性が部族武装集団により誘拐されたが、14日に無事解放された。

(6) 5月13日、アビヤン州ジャアールにおいて、国際赤十字委員会所属のスイス国籍男性職員及びケニア国籍男性職員と両名の通訳を務めていたイエメン人男性職員の3名が誘拐された。誘拐犯たちは、国際赤十字委員会の車両を強引に停車させて当該3名を誘拐

した。その後、誘拐されていた国際赤十字委員会職員3人（スイス人、ケニア人ら）及び同じく6日より誘拐されていたエジプト国籍2人が、部族の仲介を受けて、16日未明に解放された。

（7）5月14日、サヌア市内において、ウクライナ人女医に対する誘拐事件が発生した。

（8）5月27日、タイズ州タイズ市フーバン地区のホテル前において、南アフリカ国籍夫妻が武装グループに誘拐された。同夫妻の身柄はアル・カーイダの手に渡ったとの報道あり。

（9）6月12日、サヌア州ニフム郡のサヌアーマアリブ道路において、サヌア大学マアリブキャンパス教育学部に向かう途中のサヌア大学教官4人が武装部族勢力により運転手、バスと共に誘拐されたが、同日夕全員解放された。

（10）6月15日、サヌア市内ハッダ地区において、オランダ人夫妻が武装グループに誘拐された。

（11）6月18日、アビヤン州において、部族グループが、数年前にサヌアで逮捕された政治犯の釈放を求めて、軍兵士3人と地雷除去従事者6人を誘拐した。

（12）6月27日、サヌア市内において、オマーン外交官が武装部族グループによって誘拐され、サヌア市南東郊外ハウラーンに連れ去られたが同日中に解放された。

（13）6月、内務省は、アムラーン州ライダ郡ガウラ地区において、国境なき医師団に所属するフランス人2名が誘拐されたが、治安当局の介入により解放されたと発表した。

5. 対日感情

対日感情は総じて良好である。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

当地に現在日本企業は存在しない。